

# 株式会社フローリストはなこま

## 「文化の中で花は生き続ける」

[小売業・サービス業]  
生花販売、花束製作

代表者名：代表取締役社長 馬場 巧

従業員数：16人

創 業：昭和32年

住 所：須坂市大字塩川 652-1

T E L：026-245-0791

事業内容：生花小売販売、生花製作

給 与：14万～17万

<https://www.eflora.co.jp/shop/hanakoma-n/>

須坂市塩川町を通る国道406号線沿いに本店を構える花屋「フローリストはなこま」は、3代目となる馬場 巧社長を筆頭に長野市の支店を含め全4店舗を現在14人の従業員で営業しています。

本店のドアを開けると爽やかな花の良い香り。クラシック音楽が流れ、とてもお洒落な雰囲気です。店内は素敵な雑貨を豊富に取り揃えていて、業務では小さなブーケや花束はもちろん冠婚葬祭の大切なシーンの演出も手掛けています。



「花屋というのはオールマイティーに出来なければならない本当に大変な仕事なんです」そう話す馬場社長は現在43歳。家業の花屋を継ぐことを決めていたのは中学生の頃で、ご両親の店をもり立てたい思いが一番の理由だったそうです。

「もともと自分には強い意志と向上心がありましたが、経営者であった伯父さんの影響も受け、将来は人の上に立って指揮をとりたいという願望を持っていました。高校卒業後、東京の生花店で修業し専門学校にも通いましたが20歳で須坂市へ戻り両親の店に入りました」

### ●花屋における人材とは

花屋のオールマイティーな仕事とは、第一に花の基

本知識を持ち、接客から注文された商品の仕上げまでを一人が一手に担うことです。

「花屋の業務は、レストランのように厨房やフロアなど別々の担当者があるわけではなく一人ですべてを完結しなければなりません。それをこなせるようになるまでの道のりが大変なんです」

馬場社長の理想は、従業員一人ひとりが業務内容を習得し各店舗のレベルを統一させ、さらに上のレベルを目指していくというもの。しかし実際は基本である挨拶など、従業員の“質”という部分の最低ラインを揃えることに苦戦しているため人材育成は大きな課題だと言います。

### ●「花の命=人の命」～花育への取り組み～

はなこまでは須坂市内の幼稚園や保育園に花の苗を提供し、子どもたちの苗植え体験などの花育事業にも取り組んでいます。

「最近の若い人は昔のように土を触ることをほとんどしないでしょ。だから小さい頃からの体験が貴重だと思うんです。

子どもたちが自分で花を植え、それを大事に育て



る。「花の命=人の命」に繋がる大切な勉強になるはずです」馬場社長は今後の花育事業を小学校まで広げていきたいと話します。時代とともにガーデニング作業“土いじり”は年配者に増える傾向があると言います。花や緑に目を向けることで感動できる、そんな幸せな瞬間を私たちは忘れてはいけませんね。

### ●雇用は地域貢献

今年7月に岡谷市のショッピングモールに店舗を新しくオープンするため面接など開店準備に意気込む馬場社長です。

「いざ採用しても途中で辞めてしまう若者は多い



ですね。挨拶や掃除など仕事の基本が出来ないため、花を手掛ける仕事に直ぐとりかかれぬ。心配りも重要ですが一番はその人の“やる気”次第。職場に残っていく人は気持ちが備わっている人です」採用で常に悩むところだと言います。“やる気”という部分では、馬場社長が東京などのイベントに出張する際、従業員と一緒にいこうかと声掛けをしますが、自らすすんで希望し同行する従業員もいるそうです。イベントの仕事も大事な勉強ですが、道中も大切な育成の時間としてコミュニケーションを図るようにしています。また馬場社長は“雇用は地域貢献”と考えており「採用後は良い人材を育て上げ、早く仕事を任せられるようにしたい」と話してくれました。

### ●仕事は「段取り」次第

求める人材に馬場社長は「それなら、うちに見本となる従業員がいますよ」そう言って一人の若い女性を紹介してくれました。

竹内 愛（めぐみ）さんは現在入社3年目。大学は経営学部を卒業し、就職は手に職を身に付けられる仕事にしたいと考え、たまたま見た求人情報で応募したところ採用となり現在に至っています。

「花屋に就職したいという希望は元々なかったですが、幼い頃から家で母親がガーデニングをしていて、花を身近で目にする環境に育ちました。今は花に携わり商品を造り上げるのが本当に楽しいです」



竹内さんに日々の仕事について聞いてみました。「基本的に朝は掃除と店外に花の鉢を並べることから始まります。市場へ仕入れに行く曜日によっても一日の流れが変わりますが、花は食品と同様に鮮度が重要で、予約の注文が入っていれば臨機応変に対応します」

一週間の中では金曜日から土曜日にかけて忙しく、年間を通じては卒業式や母の日などの3～5月、またクリスマスの12月など季節のイベントによって忙しくなるそうです。はなこまでは各季節の記念日にイベントを実施していて、最近はお店フロアで母の日イベントを行ったばかりです。店内に子どもたちが描いたお母さんの似顔絵を並べて貼り、その空間でフルートとピアノの生演奏を行い“花と音楽の融合”で記念日を盛り上げました。

竹内さんは、やはり器用なのでしょうね？との私の問いに「いえ、全然器用じゃないです、どちらかと言えば不器用な方です」と驚く答えが返ってきました。「手先の器用さは関係ない、段取りが重要なんです。私が市場へ仕入れに行く時、彼女は早朝でも付いてくる熱意がある。その積極的なチャレンジ精神が接客業務に活かされ効果に繋がっていると思う。彼女が二人いたらお店はやっていけますよ」と馬場社長は冗談交じりに大きな期待を寄せていました。お客様の中には従業員を指名して来る方もいるとのこと。“競争心は大切”と馬場社長は話します。

### ●仲間との挑戦

「花の苗植え事業や店舗フロアを使うイベントなどに加え、今後も地域貢献を含めた企画に力を注ぎたいです。また“従業員＝仲間”という意識を持って、みんなと挑戦し続ける、そういう店を作りたい。今はまだ通過点です」馬場社長の謙虚さとチャレンジ精神が伝わってきました。

花はいつの時代も人々の暮らしや文化に必ず関わり続けることでしょう。花の魅力に触れたい方は是非お店を訪れてみてください。



きっと花の不思議な作用を感じることが出来ると思います。  
(2016年5月インタビュー)